木津川（きづ）・前深瀬川（まえふかせ）沿川の洪水被害を軽減
【川上ダム管理開始以降、初めての防災操作】

独立行政法人水資源機構が管理する淀川水系木津川支川前深瀬川の川上ダム（三重県伊賀市）の流域では、台風７号による降雨により、８月１４日５時から１５日１７時までの総雨量は２４１ｍｍに達し、ダムへの最大流入量は毎秒約１４０立方メートルを記録しました。

川上ダムでは、令和５年４月からの管理開始以降、初めての防災操作※ を実施し、最大流入量は毎秒約１４０立方メートルの時に、半分の量に相当する毎秒約７０立方メートルをダムに貯留し、下流沿川の洪水被害軽減に努めました。

※『防災操作』とは大雨によりダムに流れ込む水の一部を一時的に貯め込んで、ダムから下流に流す量を減らし、下流の川の水位を低減させる操作。

今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

ダム・河川水位の情報等は下記 HP にて公表しています。

・ダム情報：木津川ダム総合管理所 URL: https://www.water.go.jp/kansai/kizugawa/index.htm

・水位情報：国土交通省　川の防災情報 URL: https://www.river.go.jp/index

令和５年８月２４日

水がささえる豊かな社会
独立行政法人
水資源機構

独立行政法人水資源機構（みずしげんきこう）
木津川ダム総合管理所

発表記者クラブ
伊賀記者会 名張市政記者クラブ

問い合わせ先
独立行政法人水資源機構　木津川ダム総合管理所 川上ダム管理所　大高（おおたか） 住　所：三重県伊賀市阿保（あお）２１７１番地１２ 電　話：０５９５（５２）３６９０

木津川・前深瀬川沿川の洪水被害を軽減
～台風７号に伴う川上ダムの防災操作～

８月１４日５時から降り始めた台風７号による降雨は、川上ダム上流域で、最大時間雨量４１ｍｍ（１４日２３時から１５日０時まで）、総雨量２４１ｍｍに達し、ダムへの最大流入量は毎秒約１４０立方メートルを記録しました。

この洪水に対して、１５日１時００分には洪水量（毎秒７０立方メートル）に達したため、防災操作を開始しました。

＜今回の防災操作の概要＞

	流域平均総雨量	ダムによる貯留量が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダムからの放流量	ダムに貯留した量
川上ダム	241mm	8 月 15 日 2 時	約 143m^3/s	約 70m^3/s	約 73m^3/s

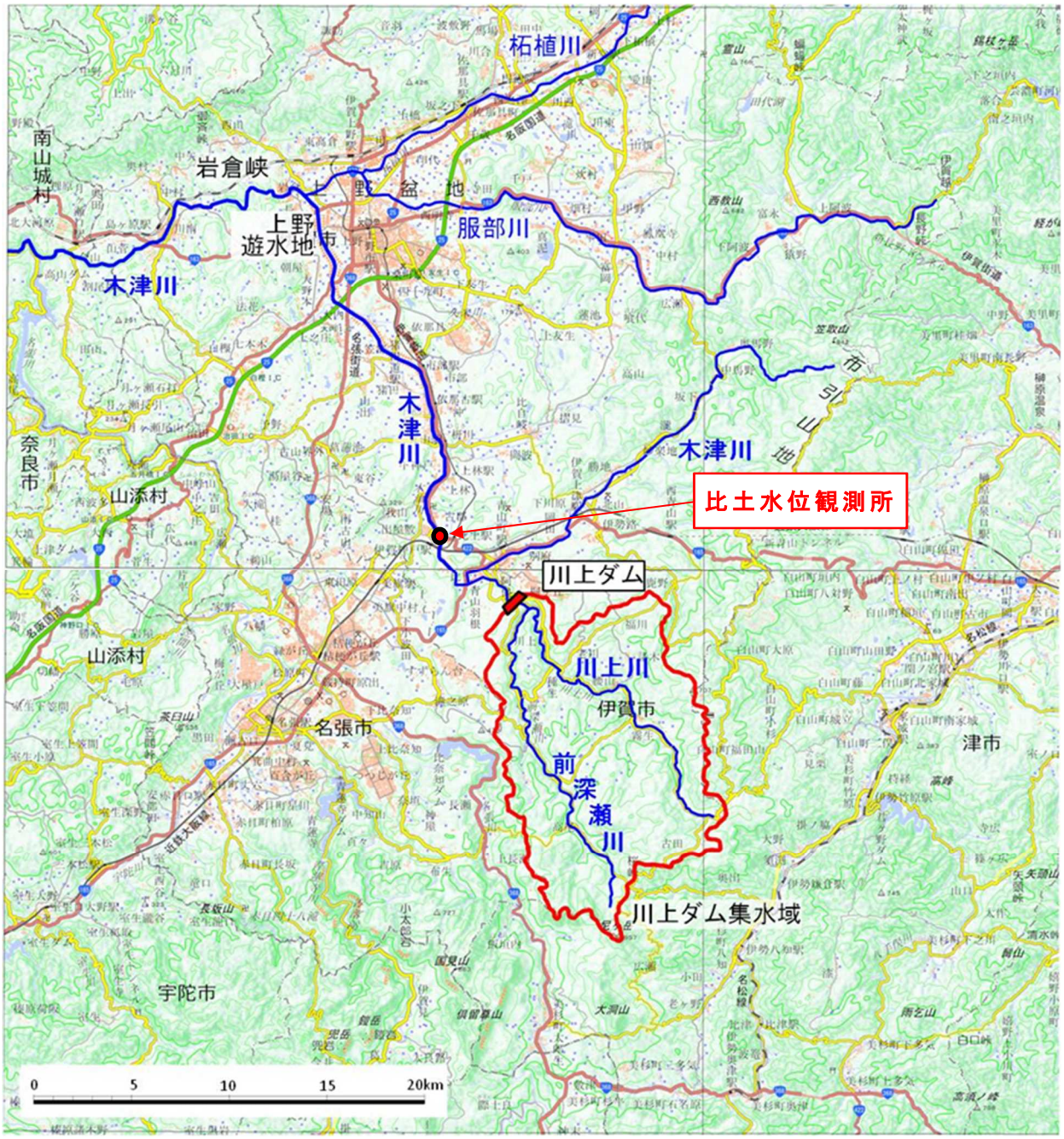
川上ダムの防災操作により、ダム下流の比土（ひど）水位観測所でのピーク時の河川水位を０．２５ｍ低減(推定)させるなど、下流沿川の洪水被害軽減に努めました。

今回の防災操作により川上ダムに貯め込んだ総貯留量は、洪水調節容量の約１０％に相当する１４０万立方メートルです。

なお、川上ダムは、計画規模に相当する洪水が発生した場合、最大毎秒８５０立方メートルの流量のうち毎秒７８０立方メートルをダムに貯留し、洪水調節容量１，４４０万立方メートルを最大限活用する計画です。

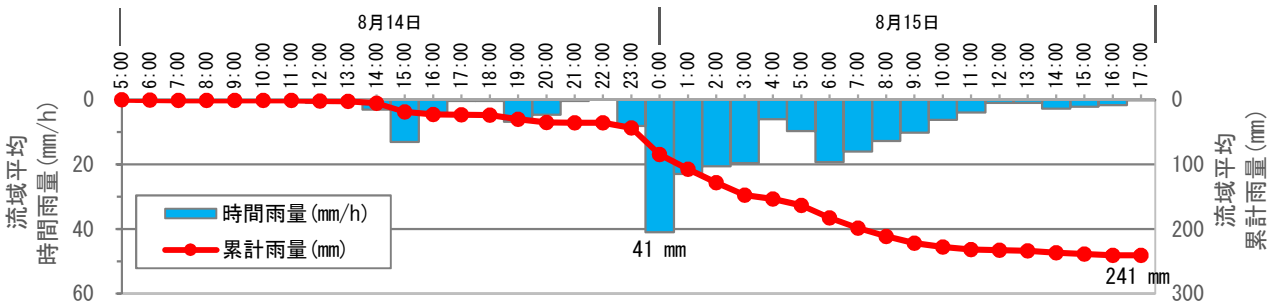
川上ダムでは、今後も治水・利水の両面でダム管理に万全を期し、ダム効果発現に努めて参ります。

川上ダム位置図

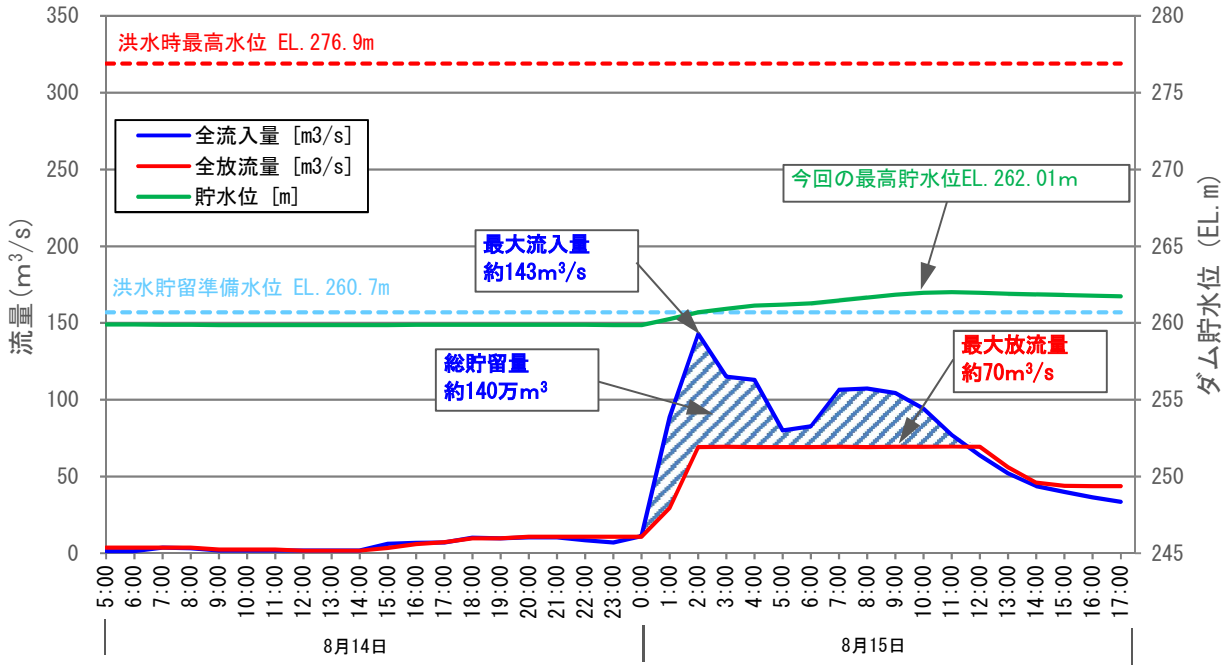

柘植川
南山城村
岩倉峡
上野盆地
上野遊水地
服部川
木津川
木津川
木津川
奈良市
山添村
山添村
名張市
宇陀市
伊賀市
津市
引山地
比土水位観測所
川上ダム
川上川
前深瀬川
川上ダム集水域
0
5
10
15
20km

川上ダムの防災操作

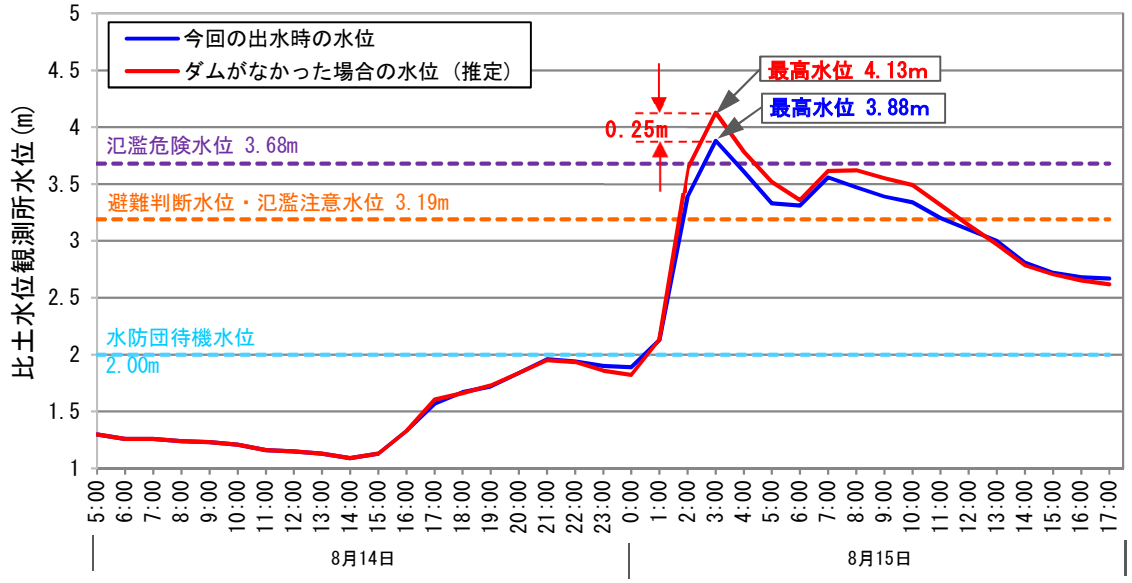
流域平均雨量



川上ダム防災操作状況図



下流河川水位変化図（比土地点）



川上ダムの概要

■ダムの諸元

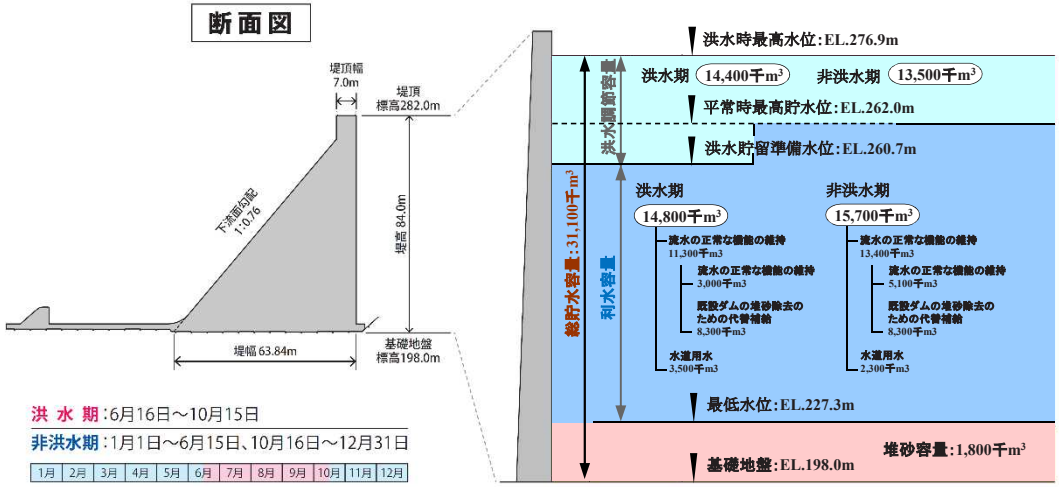
ダム型式　：　重力式コンクリートダム
堤 体 積　：　約455千m^3
堤　　高　：　84.0m
堤 頂 長　：　334m
湛水面積　：　1.04km^2
流域面積　：　54.7km^2
管理開始　：　令和5年4月

■ダムの目的

1．洪水調節
　前深瀬川、木津川沿川および淀川本川の洪水被害を軽減することを目的にダム地点における計画最大流量850m3/sのうち780m3/sをダムに貯留し、70m3/sをダムから放流する。

2．流水の正常な機能の維持
　前深瀬川や木津川の河川環境の維持・保全等、流水の正常な機能の維持を図る。

3．既設ダムの堆砂除去のための代替補給
　木津川上流にある既設ダムの堆砂除去のための代替補給の容量を川上ダムに確保し、既設ダムが堆砂除去する際、既設ダムの代わりに下流に必要な水を放流する。

4．水道用水
　伊賀市の水道用水として、最大0.358m3/sの取水を可能とする。

■貯水池容量配分図